

第2回香川県大阪・関西万博推進協議会 議事録

令和5年10月27日(金)10:00~12:00

香川県庁本館 21階特別会議室

○ 事務局（政策課長）

ただいまより、第2回香川県大阪・関西万博推進協議会を開催いたします。
開会にあたりまして、本協議会会長の池田知事より御挨拶を申し上げます。

○ 池田知事

本日は、第2回香川県大阪・関西万博推進協議会にお忙しいところ、皆様御出席いただきまして、大変ありがとうございます。

いよいよ開催まで1年半を切っております。本県で希望しておりました万博会場での自治体催事の出展、テーマウィークへの参画、こちらについては、4日間ということで博覧会協会より出展内示の連絡をいただきました。

日程についてはまた、来年の1月にも連絡があるということで、現時点では未定ですが、出展が内定しましたので、皆様方と一緒に出展内容について、これからペースを上げて、良いもの、また、香川県への誘客や香川県のPRに繋がるものになりたいと思いますので、御協力をお願いしたいと思います。

また、全般的には、この万博を香川県の活性化にも活用するためには、おいでいただくためのアクセスの強化という観点も非常に重要なポイントになっております。こちらにつきましても今日関係する皆様も大勢おいでですが、是非ペースを上げてお願いをしたいと思います。

本日は、先日、第1回会議にも参加いただきました、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の堺井局長様にもオンラインで参加いただき、ありがとうございます。万博の準備状況等についての最新情報もお聞かせいただくことになっております。

御臨席の皆様方には、是非この万博を、香川県全体で盛り上げて、また、活用をしていただけるように、今日も含め、いろいろとお力やお知恵をいただければと思います。

今日も限られた時間ですが、建設的な御意見をたくさんいただけますようお願いいたします。御挨拶とさせていただきます。

○ 事務局（政策課長）

続きまして、第1回の協議会以降、人事異動などによる交代がございましたので、新たに会員に御就任いただきましたお二方、御紹介をさせていただきます。

四国経済産業局小山局長様です。香川大学上田学長様です。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、議事の進行に移りたいと思いますが、協議会規約により、会長である池田知事が議長を務めることとしておりますので、以降の議事進行をよろしくお願いたします。

○ 池田知事

それでは、早速議事に入らせていただきます。

最初に、堺井局長より、最新の準備状況の説明をお願いします。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

まず、会場の建設などの話を少しさせていただきます。9月5日の時点ですが、資料1の1ページをご覧くださいまして、会場の中の赤い丸と赤い文字があるのが地下鉄の夢洲駅ですが、そこで多くの建設工事が始まっています。例えば、大屋根のリングと呼ばれる世界最大級の木造建築が何ヶ所か、このような形で立ち上がっております。最終的に一周2kmのリングになります。そのほかは、クレーンが何本も立っていて、いろいろなところでの工事が進んでいます。協会が発注する会場全体の建設については、建設事業者が決まり、工事も始まるということで順調に進んでいます。このような形で約一年半後になりますが、万博会期を迎えられるかと思っています。

海外のパビリオンについては、日本のゼネコンなどの建設事業者や電気工事、その他マッチングを精力的に行っていて、大部分が決まり始めています。50施設ほどパビリオンが予定されていますが、10、20と、どんどん日本側でのゼネコンパートナーが決まってきているので、進んで行くべく調整をしています。そのような進捗状況と御認識ください。

2ページ目、これが夢洲駅です。このような形で地下の駅になっており、建設が進んでいるところです。トンネル工事についてはもう終わっているので、残っていた駅舎の工事、これが順調に進んでいるということです。

今回、香川県に関係あります自治体参加催事やテーマウィークについてです。スケジュールですが、自治体の参加催事、先ほど知事から、4日間という日数が決まったとありましたが、時期の決定は、まだこれからですが、順調に進んでいるところで、11月17日の企画書の提出締め切りに向けて取り組んでいただいているかと思っています。

自治体参加催事は、38道府県が出展予定で、テーマウィークへの参加予定が8県ございます。香川県さんも、このうちの一つということだと思っています。そしてテーマウィークについては、8個の大きなテーマがありますが、その開催時期が発表されました。もう情報が行っているかと思いますが、香川県さんが取り組もうとしている時期も決まってきたということになります。

4ページ目、自治体参加催事に加えて、一般参加催事という形で、多くの企業、団体、あるいはグループなどの参加をお待ちしているものです。9月15日から12月31日までの間、参加募集中ということですので、よろしくをお願いします。一般参加催事の場所については、5ページ記載の内容で提示されており、より詳しく見ていただくために、博覧会協会のホームページから見ていただくことができます。それぞれの場所は会場使用料についても提示されております。また、既に備わっている施設にどんな設備があるのか、何ができるのか、飲食ができる、できないとか、そういった話が見て取れます。

6ページ目、「フューチャーライフエクスペリエンス」、「TEAM EXPO パビリオン」というものがあります。出展展示をする場所になりますが、万博の開催中に、未来社会を作

っていくための取組みをはじめとした活動を発表する場があります。パビリオンとは違って、期間が限定されますので、例えば1週間とか、1日、2日、3日という形で、言ってみれば、個々の活動をここで発表して議論いただくという場になるかと思います。

7ページ目、香川県などに、万博に来られたお客さんに来てもらうための紹介のツールです。「Expo2025 Official Experiential Travel Guides」という名称をつけていますが、これは旅行商品を購入まで導いていくポータルサイトを、博覧会協会が設置するというものです。前回の協議会でも説明しましたが、各地にお客さんに来てもらうためには、それを購入していただける旅行商品があって、その旅行商品が購入されるとお客さんが来るという流れになりますから、単にPRだけでは十分ではなく、これについての取組み、旅行商品を作っていくことが重要です。特に8ページ、万博のテーマの体験商品販売ページと書いていますが、万博のテーマと親和性のあるような商品や、お客さんの満足度の高い高付加価値商品や、SDGsに関連した工夫が行われた商品や経営体制が整ったものなどを是非このサイトに掲載をしていただき、それでお客様が希望する体験から、商品を探して行って購入に結びつくというものを具体的に立ち上げようとしています。このサイトの開設は、来年の4月4日から万博終了の10月末までという形にしております。イメージをわかっただけのためのティザーサイトを10月18日に先行してオープンをしておりますので、ご覧いただければと思います。商品の販売は4月4日から開始するというので、先ほどのサイト開設日からになります。具体的に万博に来られる際に、何日に来るかという入場予約をしていただくのですが、その入場予約日の前後に、この商品が出てくると、購入してトータルでプランを立てることができるようになります。そういったものを目指そうとしています。対応の言語は日本語と、あと英語、中国語2種類（繁体字、簡体字）、あと韓国語という形で提供しようと思っています。8ページ、このポータルサイトに対しては地域の魅力を紹介する動画があったり、体験商品の販売があったり、地域のイベントカレンダーが並ぶ、そこに商品として登録するのは体験コンテンツや宿泊型ツアー型商品や日帰りツアー型商品、万博関連イベントの入場券などを展開するということになります。これを、海外も含めて、JNTO（独立行政法人国際観光振興機構）などに海外にどんどん発信をしていただきながら、万博の来場者、特に海外からのインバウンドのお客さんをはじめとして、このサイトにアクセスしていただいて、商品を買ってもらいたいと思っています。これは公的な機関が、こういった商品の販売を実施するという、初めてのことでないかと思っています。チャレンジをしていきたいと思っていますので、是非ここに地域の魅力のある商品を掲載していただきたいと思っています。9ページ目、ティザーサイトのイメージです。これは今年の予定では、12月ぐらいから具体的な商品を申請していただいて、審査して、登録まで持っていくという予定で考えています。

また、11月30日からチケット販売の開始をします。前売り券のチケットですが、そのために機運醸成のSNSの発信や、ポスターも作っております。また、PR動画も作っておりますので、そういったもので機運醸成に御協力いただければ幸いです。

以上、前回会議時から情報のアップデートということでお話をさせていただきました。

○ 池田知事

ありがとうございました。それでは堺井局長から御説明いただいたことにつきまして、せっかくの機会ですので、御質問などありましたら、よろしくお願ひします。

ではまず私から質問します。先ほど丁寧に御説明いただいたサイトの件で、資料8ページ下部に、いわゆる体験コンテンツや宿泊付ツアー型商品、日帰りツアー型商品とあり、その次に、万博関連イベント入場券というのがありますが、万博関連というのは、どのように考えたらいいでしょうか。何か、要件があるのでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

実はこれを万博関連とするということの定義付けが、まだ出来ておりません。とはいえ 11 月に入りましたら、説明会を開催したいと思っています。その時に発表させていただくことを考えています。

この万博関連のイベントの入場券ですが、会場の外で行われる万博関連イベント、そういったところの入場券もここで販売することがふさわしいということになれば、そういう形で掲載をしていくことになるかと思ひます。

入場券に限らず、この横に書いてある体験コンテンツとか、宿泊付ツアー型商品とか、そういったところに、日にちが指定された商品という形で販売していくことになるので、そこに、万博関連のイベントの入場券が入ってくるようになりますが、入場券だけを取り出して売ることもあるのかなという議論の中で、記載しています。

資料8ページ、体験コンテンツと記載してあるものと同じような形で、あるイベントの入場券も併せてここで販売しようかということであって、その入場券は、この宿泊付ツアー型商品の中にも含まれていることもある。そんな関係です。

香川県の万博に関連した取組みを、万博に来られる方に紹介するということは、いずれこのポータルサイトの中で叶うのかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、佐藤副会長、お願ひします。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

この万博、私見ではありますが、おそらく、この万博を契機として香川県に来る人よりも、この万博があるということで、万博を通して間接的に香川県のことを知っていただく人の方が多いのではないかと思ひます。

その時には、このポータルサイトというのが一番の肝になると思ひますが、例えば、世界各地の方々が、日本で万博がやっていて、香川県というところは、こんな良いところなんだということがわかるようなフィルム、そういう形をイメージしていたら良いのではないのでしょうか。

○ **公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長**

このサイトの意味は、体験型の商品が世界の方々に求められているのかなと思う中で、まず万博に来ること自体が体験をすることになる訳ですが、万博会場以外で、自然に触れるとか、いろんなアクティビティーを楽しむとか、文化、産業に触れるとかそういったことを体験したいというニーズを叶えるためには、万博の外でそういった体験を作る必要があるのかなと我々も考えていて、つまり万博会場の中だけだと十分に満足して貰えないんじゃないかなということで、このサイトを作ろうとしています。

このサイトで香川県の魅力を感じるためにどのような仕掛けがあるかということについては、こんな体験ができるというところから入って、その体験が香川県のここで行われているんだという話になり、それで、その地に行きたいなと思っていただく。やはり最初から香川県ということを示すのは難しいわけで、こういう素晴らしい体験ができるのは香川県であるという形で体験から入っていくような形で誘導していこうと思います。

そのためには、香川県での体験がとても魅力的であるということ、動画の使用や、あるいは商品説明などにより伝えていくということが必要になってくるのではないかなと思っています。

その意味で、このサイトにおいて地域の魅力を紹介する動画や体験商品の販売などの形がありますが、どのような形で伝えていくのか、見せていくのかということが鍵になると思っています。うまくサイトを作っていくために、我々も初めての取組みでありチャレンジですが、皆様方の声も伺いながら作っていかれたらと思っています。

○ **一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）**

理解できました。どうもありがとうございました。

○ **池田知事**

今の御説明に関連して、香川県で言えば直島というのは、世界的知名度もかなり上がっていて、それに限らず瀬戸内も世界的知名度が上がっていると思う中で、瀬戸内の一部に万博会場が位置するということなので、瀬戸内との関連性みたいなものを言うただくことは、もちろん私たちにもプラスなのですけども、万博にとっても非常に有効なアピールの材料になるのかなというふうにも思いますので、参考にさせていただければと思います。

○ **公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長**

御発言のとおり万博は、海に囲まれたところで開催され、その海というのは、瀬戸内の一部です。我々も、初めて開催する海の万博ということも意識してやっていますので、魅力を発信するために、このサイトを工夫してみたいなと思いました。ありがとうございます。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、泉様、お願いします。

○ 香川県商工会議所連合会 泉会長

今のところで、もう少し具体的なイメージとしては、いろいろな商品が入ったようなサイトにリンクを貼るということによろしいですか。

協会のサイトに全部載せるのは大変だと思うので、ここから瀬戸内国際芸術祭のサイトや、商品など掲載されたサイトの方にリンクを貼っていくというイメージによろしいですね。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

協会のサイトには商品が全部入ることを想定しています。この商品が良いかな、こんな体験をしたい。じゃあ、こういう商品があるね、希望する日にちはいつですかと言うと、日にちを入れるとその日に体験できるのはこれですねという形で繋いでいきます。

そこで商品を選べるとすると、そこからは、商品は自ら購入してもらうことになりませんが、購入する際には、商品が掲載されているもともとのサイトと初めてお客さんが繋がって購入されるという形になります。

泉会長の御発言では、例えば瀬戸内の商品がたくさん載っているサイトにリンクで飛ぶのかという話ですが、そうではないと考えています。こちらに商品を載せていただき、その商品が見つかって、その商品を購入しようとする、そもそもその商品が載っているサイトに飛びまして、そこが瀬戸内の商品が並んでいるサイトかもしれません。そこにおいて決済などして購入してもらうという形になります。御理解いただけただけでしょうか。

○ 香川県商工会議所連合会 泉会長

わかりました。要するに商品の紹介というか、テーマが載っていて、そこで買いたいとか、見たいなと思ったら、そこから、もう少し詳しい情報はそのサイトに飛んでいくというような感じなのでしょうね。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

そうですね。それで実際契約が成立したら、その時に始めてその手数料として、例えば 10%などを、このサイト運営側にお支払いいただくという形になろうかと思えます。

○ 香川県商工会議所連合会 泉会長

わかりました。ありがとうございます。

○ 池田知事

ありがとうございました。続いて、三矢様、お願いします。

○ 公益社団法人香川県観光協会 兼 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合 三矢会長
兼 理事長

今、泉会長から御質問があった点は、もう皆さん重々御承知だと思いますが、非常に重要な 2025 年の香川県と万博がシンクロするという重要な事項であるということは御認識のことと思います。

現在、香川大学の方で、ジオサイトのテーマがクローズアップされまして、観光庁から大きな補助金もいただいております。これはいわゆるガストロノミー、いわゆる食ですね。もともと瀬戸内海ができた、香川県ができた、四国ができた、太古の時代からの地球生成の歴史をずっと紐解いていく中で、陸上では真砂ができたり、それから海の底にも、瀬戸や灘ができて海流の影響を受け、非常に味のよい魚が獲れるというふうなことの勉強会を行い、早急にこれをまとめて、国の方に提出しなければいけない作業を、今日も昼から 17 時ぐらいまで行いますが、そういう作業を進めておりまして、どういう形になるかは別にして、今計画を進めております。

もちろん万博についてのポスターや、そういった露出は行うのですが、一方で、香川県内の話ですが、それとシンクロして、やはり瀬戸内国際芸術祭というものがあるんだということを、海外に大きく知らしめる、そういった作業も必要ではないかということで、以前から、今は少し途切れていますが、よくジェトロさんと、政策投資銀行さんと我々が一緒になって、海外に物を売るんだったら観光のそういう素材も売ってもらってもいいんじゃないかというようなことで、議論したことがあります。そういったことをもう一度蒸し返して、これは商工会議所さんにもお願いをしてお力添えをいただきたいですが、海外への発信手法など、そろそろ考えていかなければならないのではないかとということで、非常に急いで、これは香川大学の長谷川教授が中心になって研究しておられますが、非常に面白いテーマであり、そこに神戸大学の巽教授が入られて、何回も議論し、今年いっぱいまでまとめていくため、大忙しなのですが、そういったことも念頭に置きながら、要するに食の高付加価値化を盛んに、2割ぐらいはアップするようにと観光庁の指示も出ております。食というのは、海外から富裕層等呼び込むには大きな理由になりますので、漁連の方や農協の方もいらっしゃいますが、連携することによってまた面白いことができるのではないかとということで、観光協会も非常に力を入れて前面に立って、今やっております。

こういった取組みを是非一つ、中に盛り込んでいただくようなお願いをこれからすると思いますが、よろしくお願いをしたいということでございます。

○ 池田知事

はい。食というのは、この万博自身でも、一つ大きいテーマのように考えてますが、そのあたりは、堺井局長いかがでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

外国の方が満足度を高めていこうというときに、日本の食に期待するところは、本当外せないところで、非常に価値があると思っています。

食の提供というのは単に食料を渡すだけじゃなくて、その場の雰囲気であり、また器だとか、そういったものであり、場合によってはその景色も含めて、匂いも含めて様々な演出の中で提供することができると思います。

それらが、やはり価値に繋がってくると思いますので、是非、そういった高い価値を持つような食に絡むガストロノミーほか、進めていただければなと思っています。そういった商品ができること、大変強く、強く期待をしております。ありがとうございます。

○ 池田知事

ありがとうございます。それでは、資料2以降、県事務局から自治体催事・テーマウィークについての報告からお願いします。

○ 安藤政策部次長

自治体催事・テーマウィークとその後のアクションプランなどについて御説明したいと思います。

資料2をご覧ください。自治体催事の企画概要で、自治体催事ということで、県が万博会場で出展する行事です。資料下部にありますとおり、コンセプトとして、これは、前回の協議会でもお伝えしましたが、豊かで美しい自然、食文化、伝統文化、そしてアートといった本県の魅力を古（いにしえ）と現代、未来を体感できるような演出を加えて発信をしていきたいと考えております。

2ページをご覧ください。会場と実施日数です。先ほど知事から報告しましたが、自治体催事会場はメッセということで、資料左側のFのマークの部分。拡大もしておりますが、こちらの屋内展示施設で4日間の使用ということで内示がございました。博覧会協会から、実施の決定・公表、こちらは来年1月になるとお聞きしております。メッセ左側に約600㎡と書いておりまして、当初メッセの半面2000㎡を希望していましたが、メッセを希望する自治体が非常に多いということで、博覧会協会で調整の上、2000㎡を、本県を含む三つの自治体で分割をして一県約600㎡を割り当てるということになっております。また、資料の左側、催事の名称部分未定ということで、赤い部分書いておりますが、令和6年度に公募で決定をしたいと考えており、本県の催事への来場意欲が高まるような訴求力のあるものとなるように、皆様から公募によって名称を決定していきたいと考えておりまして、実際の公募のタイミングは来年度を予定しておりますが、その公募に関して具体的なスケジュール等については、決定次第、発表・公表していきたいと思っております。

3ページ目、広さ約600㎡の展示施設を活用し、さぬきうどんをはじめとする食や、伝統芸能等、伝統工芸品などをコンテンツとして本県の魅力を効果的に発信し、来場者との交流もできるような企画としたいと思っております。

4ページ目、情報発信と記載していますが、写真にありますとおり、瀬戸内海の多島美やアート、そして話題になっております瀬戸芸2025に関するの情報や、四国遍路等の魅力について見せ方を工夫しながら情報発信を行っていききたいと思っております。

5 ページ目、飲食物販ですが、香川県の代名詞でありますさぬきうどんにつきまして、県のオリジナル小麦、「さぬきの夢」の新しい品種ができますのでそれを使用したさぬきうどんの試食の提供を行うとともに、以前の大阪万博が開催されました 1970 年代当時の品種の小麦で作るさぬきうどんも再現をするということで、昔とこれからのうどんの紹介を、うどん打ちの実演も交えながら実施したいと思っております。

6 ページ目、さぬきうどんのほか、県のオリジナルブランドであるオリーブの農水畜産物で、オリーブ牛やオリーブ豚、オリーブ地鶏などの畜産物や、オリーブサーモンなどといった水産物の提供も行いたいと思っております。また、資料の下の部分ですが、さぬきマルシェ in 万博ということで、毎月第3日曜日にサンポートで実施しております県産食材を使った加工品などを提供するさぬきマルシェを万博会場で再現したいと考えております。これについて市町に参画の意向調査を行いましたところ、丸亀市をはじめ 14 の市町にも参加をいただくことになりましたので共同で実施したいと思っております。

7 ページ目、パフォーマンスと題しておりますが、香川の地域に根差した伝統芸能披露するということで、香川のお祭りを万博会場で再現をしたいと考えています。三木町の獅子舞、綾川町の滝宮の念仏踊り、綾南の親子獅子舞、そしてまんのう町の綾子踊り、こちらに参加いただき、会場を大いに盛り上げていただきたいと思いますと考えております。

8 ページ目、パフォーマンスの二つ目ですが、こちらは全国高校生花生けバトル in 大阪・関西万博ということで、次の世代を担う若者にも御参加いただいて、本県が聖地として知れ渡っております高校生花生けバトルを万博会場で実施したいと考えております。大阪府の高校生とのエキシビジョンマッチなどを考えており、熱いバトルを会場で披露していただきたいというふうに思っております。

9、10 ページは伝統工芸品に関するもので、9 ページ、左から、高松市から高松盆栽、丸亀市から丸亀うちわ、そして右側、東かがわ市から手袋・革製品といった各市を代表する伝統工芸品について PR していただきまして、展示だけではなく職人による実演なども行っていただくということを考えております。

10 ページ最後ですが、これも伝統工芸品の関係ですけれども、香川漆器などについても展示等を行うということで、以上のような内容で実施に向けまして関係市町などとも共に、今後関係者と詳細を詰めていきたいというふうに思っております。

続いて資料3、テーマウィークの企画概要です。テーマウィークですが、1、2週間程度の単位で、地球規模の課題に関して博覧会協会の方でテーマを設定しており、それに関連する催しです。協会が示す8テーマのうちの一つ「地球の未来と生物多様性ウィーク」というテーマにおいて、香川県の発展と豊かで美しい自然や瀬戸内海との共生に関しての課題解決に向けて、本県の里海づくりの取り組みなどについて、展示、体験を通じて発信をしていきたいというコンセプトです。

2 ページ目、会場の場所と日数が左上にあります。ギャラリーということで、自治体催事会場のメッセとは違う場所になりますが、こちらも大きさとしては 600 m²ほどで、このギャラリーは資料のGの場所にあります。二つの屋内展示場と、一つの屋外屋根つきの展示場と、三つのスペースからなるギャラリーというところで4日間の実施が内示

されています。こちらのテーマの時期につきまして、先程堺井局長からも御案内ありましたが、「地球の未来と生物多様性ウィーク」については9月下旬に予定しているとお話をいただいておりますので、このテーマウィークの実施時期はおよそ9月下旬ごろと見込まれています。

3 ページ目、具体の出展内容ということで瀬戸内海の多島美や生態系を高品質で工夫を凝らした映像で紹介したいと考えていて、来場者に印象的な視覚体験を感じていただき、実際に来訪したくなるような見せ方ができるようなハイクオリティなものの制作を検討していきたいと思っております。

続いて4 ページ目、里海づくりの取組み等々ですが、香川県の海が抱える課題の解決を来場者とともに考えていくということで、海ごみのアート作品を作成するパフォーマンスや、本県の里海づくりに関連する取組みをワークショップで体験していただく、また毎年、直島で行われているエコTシャツアート展の展示などを通じて、来場する方が体験を通じて楽しみながら、香川県の環境問題等の取組みを理解していただくものということで進めていきたいと思っております。

今後、自治体催事、テーマウィーク、先ほど協会の資料にもありましたが11月半ばまでに、博覧会協会に企画書を提出するというので、御説明した方向に沿って企画書を作成して参りたいと思っております。

続いてアクションプラン初版ということで、資料4をご覧ください。こちら、万博に向けた香川県版アクションプラン実施計画書案ということで、県のほか、市町や今回御参加の皆様の取組みをまとめたものでございます。プロジェクトを提出していただきました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

表紙の下部に記載していますが、あくまで現時点の検討中の内容も幅広く記載をしたというものです。内容については完全に確定したというのではなく、今後、事業の精査予算の確保状況等、また、来年度以降新たな取組みの追加などがあれば改定更新をしていきたいと思っております。

では1 ページ目、こちらが策定の趣旨で、万博の開催効果を、将来に向かって最大限享受できるように県内の関係者が、相互の取組みに関して情報やプランを共有してみんなでやっという、連携を図るために策定をするものです。県の方針については①、②のとおり、情報発信と交流拡大の2本の柱であり、基本的には、この体系によって皆様の取組みも合わせて整理しています。

2 ページが目次であり、上から三つが情報発信の関係、四つ目以降の下六つが交流拡大の関係です。

3 ページ目から自治体催事・テーマウィークについて、先ほど御説明した資料の方が詳しいので9 ページまでは説明を省略します。

10 ページ目から情報発信ということで、ポイントを中心に御紹介していきたいと思っております。まず11 ページ目、瀬戸芸2025の開催です。話題に出ていますとおり、万博とほぼ同じ期間に開催される強力なコンテンツですので、今回はエリアも拡大して実施をするということでさらに魅力を高めて開催していきたいと思っております。

この資料では、右上に主な実施主体を記載しております。

続いて 12 ページ目、万博を契機とした情報発信ということで、万博は大きなチャンスですので、本県の魅力を伝える本格的なPR動画を作成いたしまして、自治体の催事ですとか、テーマウィーク、そしてホームページ等々で万博後も含めて活用していくようなものを作っていただくほか、各種媒体でこの協議会の取組み等を紹介していきたいというふうに思っております。

13 ページ目、ここから交流拡大の関係でございまして、観光誘客の促進の取組みが並びます。

14 ページ目、具体的には、国内外の旅行会社と連携をして、本県を周遊する付加価値の高い旅行商品を造成して販売するとともに、そのキャンペーンを実施していきたいと思っております。

15 ページ目、高松市と土庄町と小豆島町の事業ということで、県内3市町と神戸市さん、この四つの自治体で連携をして、神戸・小豆島・高松のルートで旅行商品を造成、販売していこうというものです。

16 ページ目、さぬき市の取組みで、万博のテーマに沿ったSDGsに関するようなテーマ、旅行商品を造成して販売していこうというものです。

17 ページ目、先ほども少し話題に出ました食にも絡みますが、これは小豆島町で検討されていますが、海外の富裕層をターゲットにして、食と観光に特化した新商品、旅行商品、新サービスを作っていこうというものです。

18 ページ目JTB様の取組みとして紹介していますが、チャーター船を使い旅行商品を造成し、そのための実証実験などをしていただくというものです。

19 ページ目以降ですが、県産品の販路拡大というテーマになります。

具体的取組みは 20 ページ以降で、県産品の認知度向上・販売促進に向けた取組みですが、大阪市内で県産品を販売することや、関西圏の有名なホテル等のレストランなどで香川フェアの実施などを行うということを考えているものです。

21 ページ目、商工会議所連合会様の取組みということで、関西圏における販路開拓のための取組みの支援ということをしていただいておりますので、その御紹介です。

22 ページ以降が万博関連イベントで、具体的見込みは 23 ページ以降になります。

23 ページ目、さぬきマルシェへの拡充と書いてありますが、毎月第3日曜日にサンポート高松で開催しているさぬきマルシェにつきまして、万博に関連して県産食材を使って世界の各国の料理などを提供して内容を拡充して開催することなどを検討しているものです。

24 ページ目、万博関連イベント②ということで、障害者芸術祭やユニバーサルスポーツフェスティバルなどの文化芸術の発表やスポーツ等を通じて障害の有無にかかわらず一緒に楽しんでいけるこの2つの会を、万博関連イベントとして開催することを検討しているものです。

25 ページ目、さぬきの棚田 20 選PR事業とありますが、さぬきの棚田に選定されております美しい棚田、これライトアップをしていこうと考えているものです。

26 ページ目、善通寺市の取組みですが、デジZフェス！というデジタルを活用した善通寺市の交流イベントがありますが、これを万博のテーマに合わせて開催しようという

ものです。

27 ページ目、CRASSO実行委員会様の取組みです。東かがわ市の手袋や革製品の職人とも交流などを行うような、ファクトリーツーリズム、工場の観光みたいなものを実施していこうというものです。

28、29 ページ、宇多津町での各種イベントについて、万博関連イベントとして実施するものです。

30 ページはSANUKI ReMIX。JTB様の取組みですが、SANUKI ReMIXのイベントについて、万博の要素を加えて万博開催期間中には開催していこうというものです。

31 ページ目、交通アクセス対策ということで、具体的取組みが32 ページ目、バスの乗り入れの働きかけです。万博の来場者の利便性や県民の利便性の向上に繋げるために、大阪と本県を結ぶバスの会場への乗り入れについて、博覧会協会から情報収集するとともにバス業者への働きかけを行おうというものです。

33 ページ目以降が受入環境の向上の関係の取組みです。

具体的取組みは34 ページ目以降です。34 ページ目が万博や瀬戸芸の開催で、外国人観光客の増加が見込まれるので、ガイドの研修や観光施設のトイレの洋式化などを進めるものであります。

35 ページ目、JR高松駅での多言語での観光案内所リニューアルによる機能強化を考えていきたいというものです。

36、37 ページは、県有施設においての多言語化やキャッシュレス化、そしてWi-Fi環境を整備すること、あるいは公共交通機関のクレジットカードでのタッチ端末の導入の促進等を行おうと考えているものです。

38 ページ目、農泊を推進して外国の方に農泊をしていただくという取組みです。

39 ページ目、東かがわ市の取組みですが、観光資源やものづくり工場、飲食を周遊するための環境整備を行っていくものです。

40 ページ目以降が機運醸成に向けた取組みで、41 ページ目、香川経済同友会様の取組みの紹介です。

42 ページ目、四国経済連合会様の取組みの紹介です。

43、44 ページ目、四国経済産業局様の取組みの紹介です。

45 ページ目、全国旅行業協会香川県支部様の取組みですが、県民を対象にした万博見学ツアーを造成していこうという取組みです。

46 ページ目、空飛ぶクルマの促進で、万博会場で運行が予定されています空飛ぶクルマについて、万博後に向けて本県での展開をどうするかといった本県への展開に向けた取組みを進めるものです。

47 ページ目、東かがわ市の取組みでIoTを活用したカキの養殖によって、新たなお土産ものを作ろうという取組みです。

48 ページ目、教育委員会の取組みですが、子供たちに万博のテーマだとかコンセプトを深く理解していただくということで、県内の小中学生や高校生等に万博に参加していただく、行っていただくということを企画しようというものです。

このように様々取組みがあり、その全体像をロードマップということで資料末尾に加

えています。様々な取組みのスケジュール感を概括的に一つにまとめています。令和5年度は、主に企画立案や取組み内容の精査や準備を進め、情報発信や機運醸成などできるものから順次取り組んでいきます。そして、来年度は万博の開催を見据えて、早いものは取組みを始めていくと。そして万博開催の令和7年度に向けて、皆様の御意見も踏まえながら着実に準備を進めていきたいと思っています。

今後もそれぞれの取組みがより具体化されるにつれて記載内容も充実させていき、良い取組みが増えればさらに追加していきたいと思っています。

改めまして今回、アクションプランに取組みを載せていただきました皆様、本当にありがとうございます。引き続き、協議会のメンバーの皆様とともに、一致団結して取り組んでいきたいと思っておりますので御協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

最後に資料5ということで、香川県における機運醸成の取組みという資料がありますので、これに基づいて簡単に紹介したいと思います。

資料1 ページ下部、万博について企業と連携したPRということで、先月、万博の公式キャラクター「ミヤクミヤク」を招請して、銀行の職員の皆様と県職員とで銀行の店頭で万博のチラシを配り、ミヤクミヤクダンスというものがありますのでそれを撮影しまして、ダンスの動画については11月中に金融機関のSNS等で公開される予定です。

2 ページ目左側、11月30日に開幕500日前ということで、県内の企業や自治体担当者等に向けて、香川SDGsの講演会というものを開催したいと考えております。また右側ですが、今後も、500日前や400日前、1年前など、そういった節目に合わせて、県のSNSで盛り上げる発信を行っていききたいというものです。

3 ページ目、今後の予定ですが、左上は先ほど催事の際にも少し触れましたが、催事の名称を公募で決定をしたいと思っています。左にありますとおり採用者について、セレモニー等への御招待等も考えており、詳細が決まりましたら御報告させていただきたいと思っています。右上、県内の各種イベントにミヤクミヤクに参加いただくことや、その下、参加型プログラムのTEAM EXPO 2025への登録の働きかけを行っていきます。

最後5ページ目、そのTEAM EXPO 2025のメンバーということで、新たにCRASSO実行委員会のファクトリーツーリズムの取組みと四国のCNFプラットフォームのバイオマス由来の新生代素材の取組みが、博覧会協会により新たに登録されています。

また、博覧会協会の資料1にもありましたとおり、一般参加の催事が年末まで募集を受け付けています。なお、今後万博会場での営業参加などの募集も開始されると伺っておりますので、可能であれば参加も御検討いただければと思っています。

県としても、引き続き情報収集を行って、得られた情報について皆様に随時素早く御提供していきたいと思っています。説明は以上です。

○ 池田知事

ありがとうございました。

それでは、四国経済産業局から資料を提出していただいておりますので、御説明をお願いできますでしょうか。

○ 四国経済産業局 小山局長

今日、追加で左方に経済産業省のマークがある資料お配りさせていただいております。こちらは、近畿経済産業局で主に企業、あるいは団体向けに、こういった参加の仕方があるかということの説明した資料で、冒頭堺井局長から御説明していただいた前半の部分と同じであります。3ページをご覧ください。

参加方法としてどういうことがあるか、最初に入力で整理をして、各団体あるいはその企業の実態に即してどこに着目すれば良いかという参加者目線で内容を整理した資料になっています。

四国経済産業局は、先ほど説明していただいたアクションプランの43、44ページで機運醸成のところを中心に活動しております。是非この資料も活用していただいて、さらに皆様と一緒に機運醸成をしていきたいと思っております。

資料7ページ目、万博場外での取組みではありますが、TEAM EXPOプログラムの記載があります。先ほど事務局から最後の方にオープンファクトリーであるとか、CNFの活動がTEAM EXPO 2025に追加されたという御説明がありましたが、こちらの共創チャレンジという活動が場外で行われており、これをバックアップするサポーターとして、共創パートナーを登録するという制度がございます。四国経済産業局は共創パートナーとして既に登録されております。今回御紹介したいろいろな取組みも推進していきますが、共創チャレンジの取組みについても共創パートナーとして、支援していきたいと思っております。

最後に、資料の11ページは自治体の皆様向けということで、こちらでも登録あるいはその企画の検討等が進んでおります。何か御不明な点があれば、経済産業局の方にお問い合わせいただけましたら博覧会協会なりにお繋ぎさせていただきます。是非いろいろなことを聞いていただければということで、紹介させていただきました。

○ 池田知事

ありがとうございました。

説明した内容については、今日御参加いただいている方からの提案内容なども一部入っているかと思います。それぞれのところで、追加で御発言いただけることや、あるいは御意見などありましたら、お願いします。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

本当に素晴らしい内容だと思えました。特にこれから香川県をPRするとなると、やはり他の県も同じことを考えてPRしていくと思いますが、知事がおっしゃったように、香川県は特に瀬戸内海や瀬戸内海の多島美などの宝を持っていますので、これを武器にして、イメージで推していくという姿勢が非常にわかりました。良い考えだと思います。

一つだけ質問がありますが、我々経済同友会は、この中でも機運醸成を担うということを役割にしています。今日いただいた資料、早速オープンにしても構わないですか。必要であれば、例えばどこのホームページに載っているとか、そこからダウンロードで

きるなどありましたら、それが可能かどうかだけ教えていただきたい。

○ 安藤政策部次長

県のホームページにも、会議終了後ですが、公表いたしますので、もちろん印刷いただいて配っていただくことや、ホームページを御案内いただければ大変ありがたいと思います。

○ 池田知事

是非、それぞれの団体や企業の方からも発信していただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。それでは、佐伯様、お願いします。

○ 四国経済連合会 佐伯会長

ただ今、県の事務局から御説明あり、小山局長からも御説明ございましたが、私ども四国経済連合会としても、この方針に沿って進められていくことについて、積極的に御支援を申し上げて参りたいと思っております。そういった前提で、機運醸成の観点を中心に、少し発言させていただきます。

状況報告になりますが、今月のはじめに開催した私どもの常任理事会、定例的に開催している役員集まりですが、そこに博覧会協会の副会長と万博の機運醸成委員会の委員長をされている関西経済連合会の松本会長がお越しになり、先ほどの資料にも写真が出ておりましたが、協力要請がありました。

私からは、EXPO70大阪万博、そして愛・地球博に続く、我が国で3回目に開催される国際博覧会であり、成功裏に開催されるように、私ども四国経済界としてもしっかりと支援協力をさせていただくと、このようにお話をさせていただきました。

その後、先週行われた、博覧会協会の機運醸成委員会、これは松本会長が委員長されていて私もメンバーになっており、オンラインで参加をさせていただきました。

その中で、多くの委員の方から御意見があったのは、やっぱり今の時代はアナログ系の情報発信ではなくて、SNSを中心としたPRが必要だというもので、先ほど堺井局長からもお話がありましたが、SNSを使ったPRに力点を置かれていることになっているので、その方向を反映したものだと思えますし、そういう時代になったんだと改めて思いました。

その場での私の発言内容を少し紹介させていただきますと、個人的な印象ではありますが、正直言って四国内で、この大阪・関西万博についての関心が、高く盛り上がってきているかという点、必ずしも今の段階では、そうはなっているようには思えない。もうすぐ11月末で500日前になるはずで、500日前になると、前売り券の発売も始まりますので、そのうち、徐々に関心も高まってくるとは思っていますが、ただ、EXPO70があったちょうど半世紀前に比べると、世の中の状況は全く変わってきていて、これだけいろいろな形で情報発信される博覧会に対する人々の意識というのはかなり変わってきているのだらうと思えます。機運醸成・盛り上げというのは非常に難しい課題を抱えているんだと個人的には思っているところです。

私は、この万博に対する期待値は二つあると考えます。一つは、このテーマにも書かれていますが、命輝く未来社会へのデザイン。子供たちが未来社会の主役になるわけですね。その子供たちに夢を与える、そういった場にしてほしいというふうに思っています。というのは、子供たちが目をきらきら光らせて、いろいろ見学などをする。それから、海外の子供たちや若者の皆さんがやって来ると思いますが、そういう人たちとの交流を通じて、新しい考え方、アイデアを浮かべるなど、いろいろなことに刺激を受ける、そういった機会に是非なってもらいたい。もう一つの期待は、もちろん先ほどから議論がありますが、四国への観光誘客の絶好の機会になるということで、世界各国あるいは国内各地から万博にお越しになる方には、是非四国、瀬戸内にも足を伸ばしていただいて、我々が認識している四国の素晴らしさを是非味わって欲しいというふうに思っておられるから、先ほどから御説明がある内容に織り込まれていると思っております。

そういったことで、万博の機運盛り上げについて四国経済連合会としてどうするのだということですが、行政の皆様あるいは各界の皆様と連携をしながら、しっかり対応していきたいと思えます。ただ、具体策としては今後、会員企業の皆さんとも相談をしていかなければならない中、まだ相談はまだできておらず私個人のアイデアのレベルですが、日頃から考えているところでは、こうした催しものとはやはり口伝で、ブームにならないと、なかなか大きい広がりにはならないと思えます。そういった意味で、松本会長が来られた時にも申し上げましたが、このミャクミャクというのはデザイン的にも、ネーミング的にも非常にユニークなので、これはもう大分広まってはきていますが、それでも四国全体からすると、まだ限定的なので、松本会長にお願いしたのは、このポスターをいっぱい欲しいと。四国各地にもあっちこちに貼りまくると、貼りまくってあれはなんだろうということになると、あれは大阪・関西万博があるらしいわと、こんな話になると、話題が増えて、万博に行ってくれるような機運の盛り上がりの一つになるかもしれないなと思っております。

もう一つは、11月30日から、前売り券の発売がスタートしますが、発売してしばらくすると、各メディアから、前売り券の売上状況について、1ヶ月後、年末ぐらいになると問い合わせがあるだろうと思えます。また来年になり、開催1年前になったら問い合わせがあるだろうと思えます。こうしたときに、売上げが芳しくないと思ましくないので、その一つの方策として、これはまだまだ本当にアイデアベースで私自身が思っているだけですが、企業さんに、購入を一括でしていただいて、社員の方であったり、取引先の方であったり、それをお分けしていくというような形で、前売り券を早く買っていただくような形でアプローチすることはできないかと思っていて、内部の検討をしております。

これから二つお願いすることは、意見的に申し上げますが、やはり子供の夢を開くという観点からすると、今回の万博について、何がキラーコンテンツなのかというと、私自身はあまり不勉強なところもありますが、空飛ぶクルマというものはあるかも知れませんが、他に何かあるのかというのはあまりよくわからない。これは博覧会協会本部の方に是非お願いしたいと思えますが、これからPRを順々に進めていく中で、キラーコンテンツは「これだ」といったものや、特別に特徴付けられるものは是非ピックアップ

していただいて、教えていただきたいし、我々がPRするときもそういったものを、特に学校関係者、教育委員会などを通じて、子供さんたちにPRしていくといったことを、是非やっていったらいいのではないかなということが1点であります。

最後に一つ。今日は香川県中心の議論でしたが、お越しになるお客様からの視点からすると、香川県に焦点を当てて来る方は非常に少ないと思います。四国全域、あるいは瀬戸内、あるいは中国地方も含めてということになるので、そういった意味では先ほどの自治体催事であったり、テーマウィークのテーマであったりというのが、香川県に焦点を当てたものになっていましたが、やはりこれも観光誘客のためのアプローチであろうと思っていますので、そういった意味では、四国各県と連携して、催事は集中して、同じ時期にやるとか、テーマウィークについても協力してやるとか、その辺りの協力が非常に難しいとは、重々わかりつつも、是非そういうアプローチをしないと、あんまり効果が出ないのかなと思いますので、その辺りは可能な範囲で努力していただけたらということで意見を申し上げさせていただきます。

○ 池田知事

ありがとうございます。大事な御意見をたくさんいただきました。

自治体催事などの出展、四国や瀬戸内海周辺での合同について状況や今後の見通しなどはいかがでしょうか。

○ 安藤政策部次長

事務局から報告します。

先ほど資料1で博覧会協会から説明ありましたとおり、催事については30数県実施するというので四国4県も出るというふうに聞いていますが、日程は今まさに調整中ということで、来年1月に決まると聞いていますので、今のお話も受けまして、博覧会協会の方での調整なので実現するかどうかわかりませんが、なるべく同じような期間でやっていただければというような話を、同じくメッセ会場で実施する隣県もあろうかと思っていますので、その辺りお願いしていきたいと思っています。

○ 池田知事

ありがとうございます。

堺井局長、日程はまた執行部で相談して、できるだけ揃えるとか、そういうことは協会としては何かありますか。都合や意向など。

○ 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

四国がまとまって同じような時期に出展するという希望が出ていたとするのであれば、それを加味した日程調整を進めていくと思います。その辺り確認しながら、今議論が出たような話が叶わないかを内部で確認したいと思います。

四国がまとまって、あるいは、瀬戸内や中国地方とともにというお話もありましたが、その辺り強い意向があたりだということであれば、それらを踏まえて決められるもので

あれば、日程の調整に反映させるのが良いかと思いました。

○ 池田知事

ありがとうございます。

まずは、まとまる必要があると思うので、しっかり努力をして、博覧会協会とも相談させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

はい。わかりました。よろしくお願いします。

○ 池田知事

それでは、次は泉様、お願いします。

○ 香川県商工会議所連合会 泉会長

私どもの商工会議所の方では、資料 4 の 21 ページに掲載していますが、まだ大きな取組みとまでは言えませんが、機運醸成に取り組んでいます。これをいかに具体的にやっていくかということがすごく大事で、おそらく来年度事業で急いで取り組んでいかなければいけないと思っていますところ。

実は、日本商工会議所の方でも、京都、神戸、あと大阪商工会議所の鳥井会頭が去年か一昨年くらいから万博の話をしてはいますが、なかなか機運が上がっていない実態があります。ようやく日本商工会議所の小林会頭あたりも、現地視察を検討しているとのことですので、だんだん機運が上がってきていると感じています。

具体的に、商品や商機をいかにコストに転換していくかという時には、我々として是非、県等と、相談しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

また、先ほど佐伯会長がおっしゃったように、多島美などの魅力は、はっきり言って、香川だけではないわけです。岡山、愛媛、徳島のあたり、徳島は多島美とは表現しませんが、鳴門もあり、やはり連携すべきです。外から見れば、世界から見れば、四国でようやく一つの街みたいなものですから、是非その辺のあたりの調整をしていただきたい。

メッセ会場を 3 自治体で分割利用するという話なら、可能であれば愛媛県など、相手方の意向にも沿えば、一緒に時に設定するすね、そのあたりの調整を是非お願いしたいなと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。かしこまりました。続いて、寒川様、お願いします。

○ 香川県漁業協同組合連合会 寒川常務理事

先ほど観光協会の三矢会長からも御発言ありましたが、県も入って香川大学、それから観光協会で、ジオガストロノミーの話がされていますので、今後の資料の中でも、一つ言葉として取り上げていただいて、どういうものを PR していきたいということも

お含めいただいたらどうかというふうに思います。御検討お願いいたします。

○ 池田知事

はい。ありがとうございます。続いて、三矢様、お願いします。

○ 公益社団法人香川県観光協会 兼 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合 三矢会長
兼 理事長

ガストロノミーについては、今日も含めて、急いでまとめていますので、是非この辺りを、大きく取り上げていただくように、情報をどんどん流していきますので、お願いしたいと思います。

○ 池田知事

はい。ありがとうございます。続いて、西尾様、お願いします。

○ 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会 西尾委員長

冒頭、佐藤副会長の方から、今回の情報はすぐに拡散してもいいのかと発言がありましたが、私も是非お願いしたいと思っておりました。本当にありがとうございます。

当方の取組みを少しでも補足させていただきます。

資料4の18ページ目、S I C Sという船旅の御提案です。やはり瀬戸内と申しますと、多島美は切り離せないところであり、瀬戸芸の移動手段の混雑の解消という意味も含めて、是非関西にいらっしゃった外国人の方にこの多島美を知っていただきたいと思えます。日本の方も含めて瀬戸内の楽しみ方を提案していきたいということで、こういった計画をしています。

続いて30ページ、SANUKI ReMIXという取組みもご紹介します。こちらは今年の11月3日から12日に玉藻城の飛雲閣で3回目の開催をさせていただきますが、盆栽や庵治石、丸亀うちわなど、伝統工芸の職人さんと、新進気鋭のアーティストを繋ぐ・繋げるというコラボレーションによって、新しいプロダクトを作る。また、展示販売、将来的にはeコマースも含めて、海外まで販路を広げていくといった取組みを続けております。

先ほど、SNSの拡散が大事だという話もありましたが、このSANUKI ReMIXも、ホームページやSNSも作っておりますので、海外の方がいらっしゃる前に、香川の伝統工芸や、地元の良さということを是非知っていただいて、SNSで拡散していただく、自ら広告になっていただくことが非常に大事ではないかと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、西岡様、お願いします。

○ **一般社団法人全国旅行業協会香川県支部 西岡支部長**

もう3年半、旅行業は疲弊しておりましたので、この万博を機運にして、何とか挽回を図っていきたくと考えております。

それで資料4の45ページに、私どもの機運醸成ということで、万博の見学ツアーを、特別ツアーとして開催したいと考えておりました。県内外に多数の旅行業者ありますので、一致団結して、地元の各種団体のお客様を連れて行きたいと考えています。それと併せて、各現地にANTAの支部がございますので、そちらを通じてこの四国の魅力、香川県の魅力を発信できる場を作っていきたいと考えておりますので、我々企画プロジェクトチームを立ち上げながら、これを最後まで運営していきたいと考えております。

○ **池田知事**

ありがとうございます。是非よろしくお願いします。

西尾委員長、船の方は是非実現するようによろしくお願いします。県の方でも、いろいろ協力したいと思います。よろしくお願いします。続いて、小川様、お願いします。

○ **一般財団法人かがわ県産品振興機構 小川理事長**

県産品の認知度向上や販路拡大の絶好の機会でございますので、県と一体となって一生懸命取り組んで参りたいと思っております。何より、県内の多くの事業者と連携していく必要がありますので、早い情報の提供・共有をいただけたらと思います。頑張って参ります。

○ **池田知事**

ありがとうございます。続いて、JR四国の藤本様、お願いします。

○ **四国旅客鉄道株式会社 藤本常務取締役**

私ども香川に来ていただくための交通機関でもあり、逆に万博に行っていただくための交通機関でもあると思っております。先日、日本商工会議所の松本会頭にも来ていただきまして、機運醸成の協力ということで依頼いただきました。

当然、駅にはたくさんの媒体がございますので、私どもも是非機運醸成にはしっかりと協力して行って、高松だけじゃなくて広いエリアで、万博に向けたPRというのをしていきたいというふうに考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

○ **池田知事**

ありがとうございます。続いて、ことでの藤本様、お願いします。

○ **高松琴平電気鉄道株式会社 藤本取締役事業本部長**

私どももJRさんと同じように交通機関でございます。先ほど佐伯会長様がこのチャクミヤクを使ったPRをポスター等でということでしたので、そういったポスター等ございましたら、また私どもにお申し付けいただければ、駅などに、しっかりと告知をし

ていきたいというふうに考えております。

○ 池田知事

ありがとうございます。駅は、毎日通るところであり、目に触れることが多いので、早速考えたいと思います。JRさんも含め、よろしくお願いします。

続いて、中橋様、お願いします。

○ 日本航空株式会社高松支店 中橋高松支店長

日本航空では、まず全社的な取組みとして、大阪国際空港をベースに運航しているジェイエアによる「ミヤクミヤク」を機体にあしらった「ミヤクミヤクJET」を就航させます。まだ香川県に直接関係する段階ではありませんが、チャンスがあれば高松空港に飛来させるなど、万博や「ミヤクミヤク」の香川県への周知に尽力したいと思います。

また、「空飛ぶクルマ」に関しましては、万博でお客さまに体験していただけるよう、本社でプロジェクトを結成して万博会場での運航を目指しております。「空飛ぶクルマ」は、瀬戸内の島間移動などに、今後の将来的な見通しという意味でも、うまく活用できればと考えております。

なお、今回、西日本支社に「大阪・関西万博プロジェクト」万博推進担当を設置しました。今後、西日本地区全体で連携して、香川県のためにいろいろ取り組んでいきたいと思っております。

○ 池田知事

ありがとうございます。

空飛ぶクルマ、島間移動。ニーズもあるし安全の面でも、陸の上よりはハードルが低いと思いますので、万博の後、こちらにというのは非常に進めていきたいと思っておりますので、またよろしくお願いします。続いて、小幡様、お願いします。

○ 高松空港株式会社 小幡代表取締役社長

万博の年と瀬戸芸が重なったということは凄くラッキーなことではないかなと思っており、瀬戸内国際芸術祭に来ている人は普段から現代アートの美術館に行くようなアート好きの人もかなり来ていると思いますが、そうではない方もいるはずです。瀬戸内海の島々や生活に溶け込む現代アートといった、島の風景とアートと一緒に共存していて、一緒に見られるということは、特にアート好きではない人にとってもすごくいい体験ができる。それが瀬戸芸の魅力かなというふうに思っています。そういう意味で、万博にどういう方々が来るのか、どういうターゲットなのかというのは、まだよく分かりませんが、日本中から、あるいは世界中からいろいろな方々が来られるでしょう。

その人達を、瀬戸芸をフックに、あるいは活用する形で、大阪から四国に渡ってもらうような、仕掛けづくりをもっとしていくことが、大事だと思っております。例えば資料2で自治体の催事の説明がありましたが、こういうのはうどんやお肉、お魚などを食べてもらうなど、あるいは伝統工芸の展示を見てもらうようなものかと思っておりますが、催事

の中で、芸術祭をPRしていくというのは、なかなか難しいのかもしれませんが、工夫していただいて、せっかくこの催事をやるとすると、そこで「こんなのやっているんだ、じゃあちょっと行ってみるか」と思えるように、自治体催事の中にも、瀬戸芸のことも取り込んでいけば良いかと思いました。また、先ほどJTBさんからもお話あった島旅のツアーなども、せっかく瀬戸芸をやっている年なので、島旅の中でも芸術祭を見てもらうことになるのかもしれませんが、芸術祭を打ち出したようなツアーも、作ってもらえると良いかと思いました。

もう1点、万博の開催期間に、今から四国に渡ってよということ、それは皆さん予定もあり難しいと思うので、事前にPRすることも大事という意味では、来月からチケットを販売していくということですが、個人情報とは別として、博覧会協会から、どういう方がチケットを購入しているかという属性などの情報がもらえたとしたら、購入層などに瀬戸芸とか四国、香川の魅力をSNSなどで発信していくような取組みも、必要ではないかと思いました。とにかく、瀬戸芸をもっとフックにして活用していけば良いのではないかと、今日説明を聞いていて思いました。

○ 池田知事

ありがとうございます。

堺井局長、前売りが始まったら購入する方の年齢や、国とか、性別といった属性のようなものを提供していただければ、それをベースに瀬戸芸をはじめ、マーケティングの焦点を少し考えられる面もあるという発言がありましたが、そういったことは可能なのでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

前売りの売れ方、売れ行きがどうなっていくか先ほどの話もありましたが、売れ行きがどうなっていくのか、どれぐらいでボリュームが出てくるかというところで、例えば、企業の方がたくさん購入していただけたとしても、その内訳がすぐにわからない状態におそくなります。

個人で購入してくださる方は、属性もはっきりする可能性があると思いますので、どの段階の情報が役に立つのかわかりませんが、この議論があったことは、博覧会協会内で共有したいと思いますし、その中で、どういう形で御提供できるかも併せて検討したいと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、上田様、お願いします。

○ 香川大学 上田学長

教育の観点から、万博をどのように活用できるかということを考えましたら、やはり若者の国際交流の場というのが大事ななと思っています。

つまり、日本人と様々な国の方との間で、例えばSDGsについてのディスカッショ

ンを行うといったこと。私がそう思った理由としては、8月末あたりに香川大学で、以前から懇意にしているタイのチェンマイ大学と台湾の嘉義大学と3大学のシンポジウムを開きましたが、そのときのシンポジウムの共通のテーマがSDGsということで、私は最初ピンときませんでした。これは国連の行動計画であり、世界中の人が知っているということですので、SDGsをテーマにすれば世界中の若者が議論に参加できると思いました。

若い人は、今はSNSなどで、いろいろ情報が過多となっている中で、どんなふうに万博に興味を持ってもらえるかというのは難しいところだと思いますが、そういう生の交流の機会になれば、若い人にも興味を持ってもらえるのではないかと思います。

もう一つは県内のことですが、外国人のお客さんを案内した時に、ある程度進んできてはいますが、まだ英語などの案内表示が少ないように思います。例えば高松築港駅で、栗林公園に行くのは右左どちら側の電車に乗ったらいいのか分かりにくいように思います。今は個人や少人数で旅行される外国人の方が多いので、そういう街中の小さなところにも、最低でもその英語の表記があればいいかなというふうに思いました。

○ 池田知事

ありがとうございます。

英語表記はいつ頃にというのは難しい面もありますが、今後も外国人は、万博の後も増加が見込まれますので、今学長からいただいた御意見は、県のみならず関係するところも多いかと思しますので、この期に少しペースを上げていただくとか、そういったことを是非お考えいただければと思います。よろしくお願いします。

続いて、片山様、お願いします。

○ 株式会社百十四銀行 片山地域創生部地域創生グループ長

我々百十四銀行地域創生部といたしましても、これまでもずっと中期経営計画にも掲げておりますが、地域課題の課題解決をしていこうという大きな目標の中の一つの項目として地域資源の普及拡大に伴う、交流人口の増加、そういったものを何か具体的にできないかというところで、現在百十四経済研究所等とも連携し、いろいろな観光の実証実験事業とか、いろいろな資源を使ってどのように呼び込んでいくかというような取り組みもしています。

こちらの万博に関しましても、情報もまだこれからというところですが、四国アライアンス4行でも、何かできないかという議論も少しずつしています。

百十四銀行としては、やはり自治体催事の企画、概要というところで香川県様が掲げられているところ、これまでもずっと連携などいろいろしておりますが、やはり香川県という小さな県を世界から見ると、香川県で覚えてくれているということはないと思って取り組むべきだと思っております。

資料2の4ページには、香川を代表するものがいろいろ記載されていますが、これら以外にもまだまだ世界に誇れるものはたくさんあるのではないかと考えております。

例えば、コロナ前には、武道ツーリズムの取り組みがあった中で、香川県には、世界の

総本山である少林寺拳法、世界に何千何万と会員数もかなり多く有しているという、こういったものも一つあるのではないかと思います。

そういった総本山がある香川県という、そこから世界に向かって発信ができないかといったことや、何を発信していくべきなのか、何をPRしていくべきなのかなど、それには効果調査、そういったものが必要なのではないかとか、そういったものを是非しっかり香川県とも連携して取り組めたら良いなと思っています。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、谷川様、お願いします。

○ 株式会社香川銀行 谷川法人コンサルティング推進部上席調査役

様々な方が発言いただいているとおおり、私も機運醸成、これが非常に大事だと思っています。山田頭取も、就任されて以降、地域・お客様を元気にするというところでいろいろな取組みをしておりますので、こちらの万博に関しても、皆様といろいろ連携をさせてもらいながら、努めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○ 池田知事

ありがとうございます。副会長、改めて御発言はありますか。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

副会長として、皆さんの積極的意見を引き出すために恐縮ですが、複数回質問させていただいています。

佐伯会長の方からありましたような、例えばキラーコンテンツというのは、非常に必要なものかという気はします。例えばEXPO70の場合は、太陽の塔や月の石がありましたよね。それと同じようなものを、やはり今回は、今から建てるというのは、なかなか難しいですが、ひょっとしたら、このミャクミャク自体がキラーコンテンツになるかもしれません。

そういったことを考えると、香川県の方にも、この着ぐるみ自体を、三つか四つかまとめていただいて、いろいろなところでミャクミャクが踊るといったイベントを行っていけば、一般の方も含めて様々な目を触れていただくことができ、機運の醸成が可能だと思います。

思いつきの話にはなりますので、恐縮です。

○ 池田知事

ありがとうございます。

堺井局長、全体を通して何かコメントございますか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

皆様方の御意見、香川の魅力を発信するコンテンツが出来ていくのかなという、非常に強い期待が持てたと思っています。

自然である多島美やガストロノミーも含めた食、また、魅力的な場所をPRしてそこに来ていただくようなそんな商品づくりもできそうな形が見えて参りました。

具体的にそれらを進めていくとともに、一方で機運を醸成するというのが、まだまだ不十分だという中で、ミyakミyakの活用とか、ポスターをいろんなところに貼っていただくということは大事だと思っています。是非期待したいと思います。また、素材は用意しますので、デジタルサイネージなどを使いながら動画などを提供できるようなところで、PRしていただくということもあるかと思っています。

キラーコンテンツという話がお二方から出ました。キラーコンテンツは毎度毎度万博の方でも、苦勞をするところで、例えば月の石などはアメリカ館が提供してくれたものという形で、それがかなり人気を博したわけですが、結果的に太陽の塔もそうですが、結果的にキラーコンテンツになったものはあつたりしますが、事前に用意するのがかなり難しい。

そういう中で、空飛ぶクルマをはじめ、こういうものが未来社会に持っていけるんだな、未来社会で実現するんだなと感じていただけるようなものを出すべく、調整を重ねています。

企業の民間のパビリオンで実現していくものや、協会主催のパビリオンで8人のプロデューサーで取り組むものや、また、未来社会の実験場と言っていますが、未来社会ショーケース事業という中で取り組んでいくもの、様々なことを、今、企業様のお力を受けて実現しようと必死になっています。

なかなかこの段階で、これがキラーコンテンツだから、是非万博に来て欲しいというのは言えない状態にあります。先ほど御発言があったとおり、次世代の子供たちに未来社会を見せていく。こういうところから未来社会の創造につながり、未来社会に期待が持てるんだと、楽しみを持って示していくことができたらいいなと思っていますので、そういった情報が出せるようになれば、我々の方も提供していきたいと思ひますし、またそれを活用して、子供たちのところにも伝えていただければと思っています。

香川県の取組み、また万博に来られる方を、香川県あるいは四国瀬戸内に連れてくる。そういった取組みについて本当に重要だと思っています。どう万博で実現するということは、本当に一緒に考えていけたらと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 池田知事

ありがとうございます。

堺井局長、最後まで御参加いただきまして本当ありがとうございます。引き続きよろしくお願ひします。

○ 事務局（政策課長）

本日は有意義な御意見、御提言をいただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の協議会、閉会とさせていただきます。

なお次回第3回は、来年の2月もしくは3月ごろの開催を予定しております。

会員の皆様方、並びに堺井局長におかれましては、本日御多用のところ、誠にありがとうございました。

○ 池田知事

それでは、これで本日の協議会を終了いたします。どうも御協力ありがとうございました。

※公益社団法人2025年日本国際博覧会協会による発言の内容等については、2023年10月27日時点の情報であり、今後、変更の可能性があります。